

えとるふとう りょうど あき
択捉島が日本の領土であることを明らかにしました。

もがみ とくない
最上 徳内
(1755 ~ 1836)



1755年、山形県に生まれ、家が貧
しかったため、若いときから苦勞を重ね
ながら、数学や天文学、地理学などを学
びました。

1785年(30歳)に、蝦夷地(今
の北海道)や北方領土のようすを調べる
調査隊に入り、1799年(44歳)に
は近藤重蔵らとともに、択捉島にわた
り「大日本恵登呂府」の標柱を立て、
択捉島が日本の領土であることを明らか
にしました。

徳内は、合計9回にわたり、北方領土などをくわしく調べ、その結果
を「北方地図」という本にまとめました。その後、オランダの医師シーボルト
と出会い、一緒にアイヌ語の研究などを行い、シーボルトから、「今世紀
における卓越した探検家」と高く評価されました。

1

1 「卓越」= ほかより、ぬきん出てすぐれていること。

ほっぼうりょうどふっきせいどうめい ほっぼうりょうどふくどくほん さんこう
北方領土復帰期成同盟の北方領土副読本も参考にしてください。

ホームページアドレス : http://www.hoppou-d.or.jp/08_keihatsu/index.html